

令和2年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和2年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 これまでの協議について・・・・・・・・・・ P 3
- 【資料2】 令和元年度の協議について・・・・・・・・・・ P 5
- 【資料3】 小規模校活性化の取組と成果について・・・・・・・・・・ P 7
- 【資料4】 伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増）・・・・・・・・ P 13
- 【資料5】 伊勢志摩地域県立高等学校 学級数の推移・・・・・・・・・・ P 14
- 【資料6】 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移 P 15
- 【資料7】 市町別の中学校卒業生進学先の推移・・・・・・・・・・ P16
- 【資料8】 令和2年度の協議について・・・・・・・・・・ P17
- 【資料9】 令和2年度の県立高等学校のPR 活動について・・・・・・・・・・ P20

- 【別冊資料】 高校教育を取り巻く社会情勢の変化

令和2年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	出席委員	
1	学識経験者 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○	継続
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○	継続
3		○	継続
4		○	継続
5		○	継続
6		○	継続
7	教育長 伊勢市教育委員会 教育長 北村 陽	○	継続
8		○	継続
9		○	継続
10		○	継続
11		○	新
12	県立高等学校長代表 中村 典生 (伊勢工業高等学校)	○	継続
13		○	継続
14		○	継続
15		○	新
16	小中学校長代表 伊勢市 岡 俊晴 (伊勢市立厚生中学校)	○	新
17		○	新
18		○	新
19		○	新
20	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 山田 純也 (伊勢市明倫小PTA)	○	新
21	鳥羽市PTA連合会 代表 中山 祐樹 (鳥羽市弘道小PTA)	○	新
22	志摩市PTA連合会 代表 柴原 貞治 (志摩市浜島小PTA)	○	新
23	度会郡PTA連絡協議会 代表 西村 剛大 (度会郡大紀中PTA)	○	新
24	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 大形 裕美江 (伊勢まなび高校PTA)	○	新
25	小中学校教員代表 伊勢市 宮崎 俊 (伊勢市立厚生小学校)	○	新
26		○	新
27		○	新
28	高等学校教員代表 三橋 哲夫 (県立伊勢工業高等学校)	○	継続

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の伊勢志摩地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- (2) 伊勢志摩地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 6月28日から施行する。

この要綱は平成29年 8月 1日から施行する。

これまでの協議について

1 基本的な考え方

少子化の進行が予測される伊勢志摩地域において、当地域の県立高等学校で学ぶ生徒たちがこれからもいきいきと学ぶことができる学習環境を整え、各県立高校の活力の維持・充実と活性化を図るため、協議を行っています。

2 これまでの経緯

(1) 平成24年度

- 当地域の中学校1・2年生等及びその保護者に対して、高校進学に対する考えや意見を調べるためのアンケート調査を実施
- 「平成24年度協議のまとめ」（平成25年3月、平成27年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化の具体策のまとめ）
 - ・平成27年度に南伊勢高等学校度会校舎を1学級とせざるを得ないと考える。
 - ・これにより、南伊勢高校は1学年2学級となることから、将来的に南勢校舎・度会校舎を他の高校の分校とすることを検討する必要がある。
 - ・鳥羽高校は、総合学科のあり方等、魅力化・活性化について重点的に検討する必要がある。
 - ・志摩高校は、引き続き魅力化・活性化について検討する必要がある。
 - ・水産高校は、学級減も視野に入れながら、学科・コースのあり方等、魅力化・活性化について検討する必要がある。

(2) 平成25年度

- 「専門学科検討ワーキング会議」「鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議」を開催し、テーマを絞った協議を開始
- 平成33年度を見据えた平成28年度以降の当地域全体の県立高校のあり方について協議を開始

(3) 平成26年度

- 両ワーキング委員による山口県へのベンチマーキングを実施 → 他県の成果と課題を踏まえて、県立高校が地域活性化や地域貢献に果たす役割という観点から協議
- <専門学科検討ワーキング会議> 専門学科高校3校（伊勢工業・宇治山田商業・明野）が4学級規模を維持できるうちは、単独校として存続を提案
- <鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議> 各高校が連携して活性化に取り組むべき活動の1つとして「地域防災プロジェクト」の実施を提案／各地域の中学生の進路保障のために、地域の県立高校の存続を提案

(4) 平成27年度

- 鳥羽・志摩・度会地域の中高校生による地域防災プロジェクト「東北交流ボランティア」を実施。当地域の高校生・中学生及びボランティアの大学生が宮城県・福島県を

訪問し、災害ボランティア活動を行い、地域で活動報告も実施

- 「伊勢志摩地域高等学校活性化を考える会」を地域の7市町すべてで開催し、教育関係者や小中学校の保護者に対して、この地域の少子化に伴う中学校卒業生数の減少の状況等について説明・周知し、質疑応答やアンケートにより意見を交換

(5) 平成28年度

- 「県立高等学校活性化計画」策定にあたって、鳥羽・志摩・度会地域の小規模校のあり方について協議し、学校別に活性化協議会を設置することにより、地域からの主体的な支援策を含め、学校と地域が一体となった活性化に取り組む方向性を確認
- 地域の小中学生やその保護者に対して、各学校の魅力をもっとPRする戦略を強化することを確認するとともに、当地域の県立高等学校合同説明会（進学フェスタ）の実施を決定

(6) 平成29年度

- 伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタを6月10日に実施。小中学生や保護者が各高校の特色を一度に把握できる機会であることから、より多くの参加が得られるよう日程調整し、次年度についても実施することを確認
- 小規模校に設置している学校別活性化協議会における地域と一体となった学校活性化の取組（1年目）の成果と課題を共有し、意見を交換

(7) 平成30年度

- 6月9日に開催した伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタについて、過去2回での成果と課題をふまえ、より多くの参加が得られるよう次年度については時期と開催場所を変更して実施し、検証することを確認
- 地域の小規模校での地域と一体となった学校活性化の取組（2年目）の成果と課題を共有し、今後の伊勢志摩地域の高等学校のあり方など意見を交換

令和元年度の協議について

第 1 回

- 1 日時 令和 2 年 2 月 1 8 日（火） 1 9 時 3 0 分から 2 1 時 1 0 分まで
- 2 場所 県伊勢庁舎 4 0 1 会議室
- 3 概要

当地域の県立高校の魅力発信（PR）のあり方について、当協議会で過去 3 回開催した「伊勢志摩地域県立高校進学フェスタ *」を中心に協議しました。また、令和 2 年度の協議に向けて、当地域の中学生の進学状況、今後の中学校卒業生数の推移および高校の配置等について、情報共有と意見交換を行いました。

*伊勢志摩地域県立高校進学フェスタ

○開催日時：令和元年 11 月 17 日（日）13:00～16:40 ○開催場所：いせトピア（伊勢市黒瀬町）

○参加者：220 人（中学生・小学生・保護者等）

○内容：生徒を中心とした学校の魅力や学科・コースの特色についてのステージ発表やロビーに各校がブースを設置して個別相談を実施した。

主な意見は次のとおりです。

《県立高等学校の魅力発信（伊勢志摩地域県立高校進学フェスタ）について》

- P T Aにはさまざまな行事があるため、より丁寧な日程調整が必要である。また、誰に向けてのイベントなのかをより明確にすることが大切であるとする。
- 高校生が工夫して自分の学校をアピールすることは小中学生や保護者に各学校の良さが伝わるので継続してほしい。小中学校側も児童生徒がより多く参加できるようもっと協力することが大切である。
- 生徒による学校紹介において、先生の指導や準備が十分でない場合は生徒のプレゼン力が弱く、その学校の魅力を伝えきれないケースが見うけられた。
- 実際の学校現場において、自身の高校を多くの小中学生や保護者へしっかりと PR できる生徒は、特に小規模校ではそう多くはいない。各高校において教員が生徒の指導はしているが、負担も大きいため、十分に発表準備を行うことが難しいことも理解してほしい。
- 「進学フェスタ」は高校生が成長する場として素晴らしいと思うが、各中学校での学校説明会や、夏のオープンスクール等もあり、現在の形態での魅力発信を続けてもあまり成果は期待できないのではないかと感じる。
- 事前に協議会で「進学フェスタ」開催のことがわかっていたら、もっと小中学校においても積極的に宣伝できたと思う。参加者を多くすることに関して、中学校が担う役割が大きいと感じる。

- 県内他地域では合同説明会をP T Aが主催しているが、伊勢志摩地域のP T A組織の体制では、この進学フェスタをP T Aが運営することは難しく現実的でない。また、現在のような合同説明会よりも、高校の学習内容や雰囲気わかる動画をユーチューブ等で配信するなど他の方法の方が、小中学生には大きな影響力があると考える。
- ※「伊勢志摩地域県立高校進学フェスタ」は県教育委員会とP T A代表者等で協議し、県立高校の魅力が児童生徒により効果的に発信できる取組になるよう内容や開催方法に改善を加え、令和2年度も引き続き実施する方向で検討します。

《令和2年度の協議会に向けて》

- 今年の高校入試では、4月からの私立高校授業料実質無償化の影響もあり、多くの中学生が私立高校を受験し、合格内定を得たと聞いている。この状況の中では、特に普通科の県立高校は、更なる学校の魅力の向上と発信が必要と考える。
- 私立高校は、施設・設備面での有利さに加え、早く進路を決めたいという生徒や保護者の心理をとらえて、専願制度によって早期に多くの入学者を確保する傾向がある。県立高校の入学者選抜についても同様の制度の検討が必要ではないか。
- 地域の中学校卒業予定者数の減少や中学生の進学状況の変化の中で、各県立高校がより特色を出し、魅力を高め、地域の子どもたちの学びと成長の場となるよう、この協議会として主体的に方策を考えていきたい。

小規模校活性化の取組と成果について

1 県立高等学校活性化計画における小規模校の取組

平成29年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」に基づき、県立高等学校の活性化を推進しています。特に1学年2～3学級規模の高等学校については、学校ごとに活性化協議会を設置し、市町関係者、地元産業界の地域関係者と具体的方策を協議し、地域の状況、学校・学科の特色などをふまえ、「活性化プラン」を策定して、一体となって活性化の取組を推進し、学校の魅力化に取り組んでいます。

また、昨年度から地域課題の解決に向けた探究的な学びを展開する「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」を実施し、小規模校であることのメリットを生かして、将来地域で活躍する姿を思い描くことができる高校生の育成をめざした取組を推進しています。

昨年度末においてすべての小規模校では1学年2学級規模を維持しているため、昨年度末に各学校別協議会を開催し（コロナウイルス感染症拡大の影響で、一部の学校は今年度前半に実施）、これまで3年間の活性化取組の活動と成果について検証を行いました。各校においては、これまでの活性化の取組を踏まえながら、令和2年度以降残りの2年間も学校と地域が一体となって引き続き活性化に取り組むこととなりました。

<県立高等学校活性化計画（平成29年3月）より抜粋>

- ・活性化の取組期間は、3年間を原則とし、入学者の状況や生徒の進路実現の状況、活性化の取組など、その活動と成果について毎年度検証を行い、3年経過後に、その後の方向性を検討する。
- ・3年間の取組期間が経過した後、2学級規模を維持している学校は、引き続き活性化に取り組む。

2 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業（令和元年度～3年度）

事業の趣旨・目的

高校生が地域課題や地域の特色ある産業を題材に地域住民や職業人と関わりながら主体的に課題解決に取り組むことを通じ、実社会の課題に協働して対応する力など、これからの社会で生きる力を育みます。また、生徒自身が地域の一員として、地域への魅力や誇りを高め、地元で活動する将来を思い描けることができるよう、地域を学び場とした地域課題解決型の新しいキャリア教育モデルを構築していきます。

事業の概要

- 学校別協議会を設置している1学年3学級以下の小規模校を「地域みらい※PBL実践パイロット校」に指定し、地域と学校をつなぐ巡回型のコーディネーターを配置して、地域課題解決型キャリア教育の取組を計画的に実施しています。

※PBL=Project Based Learning（課題解決型学習）

- 年度末に各地域で成果発表会を開催し、学習の成果を地域に発信・PRするとともに、翌年度の取組の改善につなげます。

○鳥羽高校

＜活性化の方向性（R1年度まで）＞

- ①希望する進路実現に必要な基礎学力を身に付け、生徒一人ひとりが自信や自己肯定感を持てるよう、教育活動・環境整備を推進する。
- ②生徒と教職員が学校に誇りを持ち、地域社会を支える若者が育ち合う学校として認められるよう、高校生としてふさわしい身だしなみや、挨拶をはじめとした社会性を備えた生徒を育てる。卒業後も地域の企業や地域行事で活躍できる人材を育成する。
- ③総合学科の枠組みと、観光などの地域資源を活用した学習を通じて、それぞれが地域に役立つ人材であることを実感できる実践的な教育を推進し、地域で活躍できる力を育てる。
- ④在校生が地域行事等で活動する姿やその発信を通じて、小中学生等や地域から親しまれ、信頼される学校づくりを推進する。

＜3年間の活動の成果＞

- ・「鳥羽学」での海女文化のVR制作、地元商店街の活性化等の取組や「産業社会と人間」でのフィールドワーク等の活動を通じて、地域住民、鳥羽市役所や関係団体等と連携を深めることができた。
- ・鳥羽市内の事業所や福祉施設の協力を得て、社会体験実習を行うデュアルシステムを開始し、より実践的な教育活動を充実させることができた。
- ・スタディサプリの到達度テストを活用して、基礎学力の把握、分析、向上に取り組み、丁寧な指導で「わかる」授業を展開することにより、生徒が前向きに授業に取り組むようになった。授業規律が定着することで、生徒の問題行動も減少し、学校全体が落ち着いた雰囲気になった。
- ・本校生徒による地元小学校への英語の出前授業を実施し、高校のPRを展開することができた。
- ・台湾、中国の高校生との国際交流（R1年度）により、新たな交流の実践をはじめることができた。

＜R2年度以降の主な取組＞

- ・基礎学力の定量的把握、分析、基礎学力向上策の研究を進め、授業改善を図る。
- ・地域との連携をさらに進め、地域学習、地域・企業関係者等とのキャリア教育を実践する。
- ・国際観光文化都市に位置する学校として、英会話に関する学習機会と国際交流の充実を図る。
- ・学校PRに向けて、小中学校との連携・交流や地域行事への生徒参加を促進するとともに、学校の取組の情報発信の拡大、学校行事の地域住民等への公開、参加促進に努める。

○地域課題解決型キャリア教育（今年度の取組）

・対象カリキュラム

①1年生全員 「産業社会と人間」 ②2年生文理進学系列12人「鳥羽学」

- ・1年生は、全員が鳥羽市内へのフィールドワーク等の体験学習をはじめとした地域を題材にした学習を実施。2年生は、学校設定科目である「鳥羽学」において、鳥羽市の協力を得ながら、生徒が鳥羽の魅力や課題を理解するとともに、その魅力の発信や課題の解決に取り組む。昨年度新たに取り組んだVR（バーチャル・リアリティ）を活用した海女文化の発信や地元商店街でのフィールドワーク、インタビュー等を通じた中心市街地の活性化についての考察など、魅力発信等に取り組む。

志願・入試状況の推移

志願者/募集定員

年度	入学定員	12月調査	入学者選抜			入学者数	欠員	鳥羽市内 中学校出身者		鳥羽市 中学校 卒業生数
			前期選抜	後期選抜	再募集					
H28	80	42	40/40	18/42	21/25	73	7	12	8.3%	145
H29	80	59	55/40	25/38	12/15	77	3	23	12.8%	180
H30	80	57	59/40	17/36	6/20	66	14	25	13.8%	181
H31	80	43	40/40	13/42	13/29	64	16	9	6.4%	140
R2	80	46	48/40	14/36	5/26	59	21	18	13.6%	132

○志摩高校

＜活性化の方向性（R1年度まで）＞

- ①(地域連携) 地域の教育資源活用による特色ある教育活動を展開し、生徒のキャリア育成や志摩市を担う当事者意識の醸成
- ②(学力向上) すべての生徒に対する基礎学力の定着と進路実現に向けた指導の充実
- ③(進学対策) 国際コースを進学グループと実用的な英語習得グループに分けて、より効果的な指導を展開
- ④(広報活動) 地域への情報発信と中学生への丁寧な説明

＜3年間の活動の成果＞

- ・学校独自の科目「志摩学」を創設し、志摩に関する様々な事項を教科横断的に取り入れ、系統的な学びを「総合的な探究の時間」に実施する体制を構築できた。
- ・コーディネーターや職場定着サポーターの支援を得て志摩市内の企業を開拓し、2年生全員がインターンシップを実施する体制が構築できた。成果をまとめる作業や生徒が発表する機会を創出したことで、生徒のコミュニケーション能力や発表力の向上につながっている。
- ・基礎力診断テスト結果の振り返り研修会、ベネッセの担当者を招聘した教員研修等に加え、放課後や長期休業中における全職員による課外での個に応じたきめ細かな指導により生徒の基礎学力が向上した。
- ・計画的で丁寧な進学指導体制により、令和元年度には国公立大学（三重大1名）や医療分野の上級学校（19名）へ進学し、生徒の進路実現につなげることができた。
- ・2年間にわたりアンケートを実施することで、市内全中学生とその保護者、市内全小学生の保護者のニーズ等を把握するとともに、志摩高校の取組の認知度を向上させることができた。

＜R2年度以降の主な取組＞

- ・「志摩学」の系統的な学びの完成、地域を学びの場とした探究的な活動の体系化
- ・語学を活かし、志摩市に貢献する人材の育成
- ・生徒の個々の状況に応じた「学び直し」を実施、ICTを活用したわかりやすい授業への取組
- ・教育、医療の分野に進学する生徒への進学講座等の支援を実施
- ・志摩市回覧版への学校紹介チラシの添付、「志摩高通信」やWebページの頻繁な更新、志摩高生が地域イベント等に積極的に参加・協力するなど広報活動を実施

○地域課題解決型キャリア教育（今年度の取組）

- ・対象カリキュラム
 - ① 1年生全員「総合的な探究の時間」
 - ② 2年生全員「総合的な探究の時間」
 - ③ 3年生全員「総合的な学習の時間」
 } 1～3年「志摩学」の取組の中心
- ・志摩市職員からのレクチャー等により、地域の現状と課題、魅力について学び、興味関心がある課題についてグループでテーマ設定し、フィールドワーク等を通じてその現状を体感し、解決策を考える活動を3年間を通じて実施。1年生では地域について知り、2年生では地域や地域の産業について自分たちで考え、3年生では地域のために行動して貢献することを目指す。

志願・入試状況の推移

志願者/募集定員

年度	入学定員	12月調査	入学者選抜			入学者数	欠員	志摩市内		志摩市 中学校 卒業生数
			前期選抜	後期選抜	再募集			中学校出身者		
H28	120	86	72/44	49/71	10/26	104	16	98	21.2%	462
H29	120	101	91/44	57/71	4/15	109	11	99	22.0%	449
H30	120	105	92/44	64/71	3/12	111	9	98	22.7%	432
H31	120	75	68/60	32/63	18/31	107	13	90	22.5%	400
R2	80	71	64/40	34/36	2/5	77	3	72	18.5%	389

○水産高校

＜活性化の方向性（R1年度まで）＞

- ①水産高校ならではの魅力を主とした情報発信を行い、地元地域外からの入学者も集める。
- ②水産・海洋に関する実習教育における学科・コース間連携や地域・産業界との連携を深化させる。
- ③水産高校の使命を踏まえ、専門的な資格取得等を進め、一人ひとりの希望に応じた進路実現を図る。
- ④個々の生徒の資質や能力に応じた指導・支援に取り組み、基礎学力の定着・向上を図る。

＜3年間の活動の成果＞

- ・桑名地区での学校説明会への参加や四日市市内の全中学校を訪問するPRを実施するなど、志摩市以外でのPR活動を積極的に行った。
- ・県内広域や県外からの入学者を受け入れるための下宿については、地元住民や行政の協力のもと一定数開拓し、現状において必要な数を確保することができた。
- ・県事業「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」を活用し、地域や大学等と連携し、磯ノミの改良やROV（水中ドローン）開発など生徒の探究活動を深化することができた。また、成果発表会で地域へのPRを行うとともに、生徒の表現力、コミュニケーション力、思考力を向上を図ることができた。
- ・授業での指導と課外補習で、多くの生徒が資格取得に挑戦し、自身の達成感や自己肯定感の醸成を図るとともに、生徒の進路実現につなげた。

＜R2年度以降の主な取組＞

- ・水産高校で学ぶ魅力を発信し志摩市内外で一層の入学希望者を開拓する。
- ・志摩市と連携し、交通の便宜や下宿制度の構築を目指す。
- ・基本的な知識と技術の修得や資格取得で培われた専門性の更なる向上に向け学習活動を充実する。
- ・船舶・水産業の魅力等を実感させ、専門分野への就職や進学意識を醸成する。
- ・個々の生徒の資質や能力に応じて、ICT等を活用して義務教育段階からの学び直し等の支援を行い、基礎学力の定着を図る。

○地域課題解決型キャリア教育（今年度の取組）

- ・対象カリキュラム
3年生海洋・機関科、水産資源科「課題研究」及び「総合実習」※一部2年生を含む
- ・水産高校の専門性を活かし、3年生の「課題研究」や「総合実習」において水産資源科と海洋・機関科の両学科が連携して地域の再発見や課題解決に向けて学習活動を実施。海上保安庁と連携した海底調査、地域にある食材等を利用した新たな調理方法の開発やサバCANの改善、地元海女さんと協力したガンガゼ駆除方法の研究、海女さんが漁で使用する「磯ノミ」の作成・改良、ROV（水中ドローン）による海洋環境調査、アワビの種苗生産等の探究活動を進め、地域に貢献する意欲や態度を育成。

志願・入試状況の推移

志願者/募集定員

年度	入学定員	12月調査	入学者選抜			入学者数	欠員	志摩市内 中学校出身者		志摩市 中学校 卒業生数
			前期選抜	後期選抜	再募集					
H28	80	66	69/40	28/36	5/12	71	9	52	11.3%	462
H29	80	76	74/40	41/37	—	80	0	67	14.9%	449
H30	80	75	77/40	37/36	1/1	80	0	54	12.5%	432
H31	80	75	75/40	33/36	2/10	70	10	48	12.0%	400
R2	80	58	59/40	14/37	0/23	57	23	40	10.3%	389

○南伊勢高校度会校舎

＜活性化の方向性（R1年度まで）＞

- ①（進路支援）普通科高等学校として、基礎学力の定着をはじめ、生徒の進路希望の幅を拡充し、進路実現に向けた具体的手立てへの支援を行います。
- ②（地域連携）度会町の地域性を活かした郷土学習や体験学習を通じ、生徒らが主体的に考え、行動する力を育成するとともに、度会町への愛着、愛郷心を育むことで、豊かな学校生活を送り、地域への定住を図り、延いては地域全体の活力を高めます。
- ③（学校広報）度会校舎への理解を深めるため、中学生、保護者及び、地域住民への広報活動を実施します。

＜3年間の活動の成果＞

- ・タブレット端末を40台に拡充することで、クラス単位で授業に使用するなど、活用の幅が広がった。
- ・専門学校講師による公務員講座や度会町役場でのインターンシップ等、進路実現のための取組を継続して実施した。
- ・資格取得講座の対策指導を実施し、漢検2級（1名）、英検準2級（1名）にも合格した。
- ・茶摘み体験や林業体験、地域の史跡巡り等、地域の産業や歴史を学ぶ活動を地域と連携して実施した。
- ・出前授業や部活動の合同練習等による地元中学校との交流、度会町の広報紙への掲載等により度会校舎の情報を広く発信することができた。
- ・遠隔授業の実施や合同での進路行事により、南勢校舎との交流、連携が進んだ。

＜R2年度以降の主な取組＞

- ・塾講師や度会校舎の教員等による進学対策課外授業の実施
- ・進路ガイダンスとしての分野別相談会や進路に関わる講演会等の実施
- ・度会町が主催する複数のイベント等への積極的な参加
- ・度会校舎教職員や生徒による地元小中学校での出前授業の実施
- ・ホームページの更新、ポスターやPR動画による一層のPR活動の実施

○地域域課題解決型キャリア教育（今年度の取組）

- ・対象カリキュラム
 - ①1年生全員「総合的な探究の時間」
 - ②2年生全員「総合的な探究の時間」
- ・度会町役場の職員からの講義、地域の職業人や経営者等の講演会等を通じて、地域の現状や課題について学習。また、1年生では地域でのフィールドワーク、2年生では地域の保育所やケアハウス、森林組合等での体験活動、特別支援学校との交流学习を実施する予定。

志願・入試状況の推移

志願者/募集定員

年度	入学定員	12月調査	入学者選抜			入学者数	欠員	度会中学校出身者		度会中学校卒業生数
			前期選抜	後期選抜	再募集					
H28	80	40	41/24	25/53	13/32	60	20	5	5.6%	89
H29	80	41	41/24	35/53	9/23	67	13	19	24.7%	77
H30	80	41	40/24	15/53	2/39	43	37	6	7.6%	79
H31	80	47	49/40	14/37	13/23	70	10	21	24.4%	86
R2	*80	(33)	*39/40	*5/36	*2/32	*50 (36)	*30	(9)	12.9%	70

※令和2年度入学者選抜から南伊勢高校は両校舎で定員を2学級80人とし、一括募集を行う。()は度会校舎の数値

○南伊勢高校南勢校舎

＜活性化の方向性（R1年度まで）＞

- ①コミュニティ・スクールとして南伊勢町や地元産業界と連携した事業を展開します。
- ②高校生の自己有用感が高まり中学生にとってあこがれるモデルとなるよう、町内中学校とのより深い交流活動を実施します。
- ③度会校舎との交流及びICTを用いた遠隔授業を促進します。
- ④丁寧な指導で確実に基礎学力を育成します。
- ⑤一人ひとりの希望に応じた進路実現を図ります。
- ⑥町内住民の南勢校舎に対する意識の変容を目指したPR戦略を展開します。

＜3年間の活動の成果＞

- ・地域のイベント等に多くの生徒が参加して、SBP活動が広く周知され、町の活性化にも貢献した。
- ・南伊勢町主催の防災訓練への参加、「総合的な探究の時間」での防災教育の取組、「東北被災地研修」への参加等、地域の防災リーダー育成の取組が進んだ。
- ・地域創生アドバンスコースにおいて、「地域創生」「地域探究」等の授業で地域と一体となった学習を展開することができた。
- ・H29年度から課外授業の増加や大学進学給付型奨学金の補助等の南伊勢町からの支援もあり、5名(H29)、2名(うち1名国公立大・H30)、2名(R1)が大学に合格するなど、生徒の進路実現を進めることができた。
- ・遠隔授業の実施や合同での進路行事により、度会校舎との交流、連携が進んだ。

＜R2年度以降の主な取組＞

- ・授業やSBP活動における南伊勢町や町内小中学校との連携、防災活動等に継続的に取り組む。
- ・度会校舎との遠隔授業を推進し、部活動でもより連携した活動を実施していく。
- ・基礎力診断テストやマナトレを活用しながら基礎学力の育成を図る。
- ・あいさつ運動を随時実施する。
- ・南勢校舎らしいイメージを「見える化」する広報やホームページの刷新で学校PRをより推進していく。

○地域域課題解決型キャリア教育（今年度の取組）

- ・対象カリキュラム
 - ①1年生全員「総合的な探究の時間」②2年生地域創生アドバンスコース「地域探究」
 - ③2年生「インターンシップ」④3年生地域創生アドバンスコース「地域課題研究」⑤SBP
- ・1年生は「総合的な探究の時間」、2年生は「地域探究」や「インターンシップ」、3年生では「地域課題研究」の科目において、町長から町の課題について直接話を聞くなど数多くの講演会や地域の事業者によるワークショップ、それらの事業者の職場でのフィールドワーク、インターンシップの実施等、地域と密着した探究活動を実践。

志願・入試状況の推移

志願者/募集定員

*中高一貫特別選抜は定員を定めていない。

年度	入学定員	12月調査	入学者選抜			入学者数	欠員	南伊勢町内中学校出身者		南伊勢町中学校卒業生数
			前期・中高志願者数	後期選抜	再募集					
H28	40	19	14	3/26	2/24	18	22	15	15.2%	99
H29	40	5	5	0/35	1/35	5	35	5	5.6%	89
H30	40	20	20	3/22	0/19	21	19	20	25.3%	79
H31	40	4	5	0/35	0/35	5	35	4	6.3%	64
R2	*80	(13)	*39/40 (中高一貫6)	*5/36	*2/32	*50 (14)	*30	(13)	25.5%	51

※令和2年度入学者選抜から南伊勢高校は両校舎で定員を2学級80人とし、一括募集を行う。()は南勢校舎の数値

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測 (含社会増)

資料4

令和2年5月1日 教育政策課調べ

	H 15.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 現中3	R 4.3 現中2	R 5.3 現中1	R 6.3 現小6	R 7.3 現小5	R 8.3 現小4	R 9.3 現小3	R 10.3 現小2	R 11.3 現小1
伊勢市	卒業生数	1,215	1,196	1,170	1,087	1,058	1,078	1,122	984	1,030	1,004	1,035	990	901
	前年度対比		-19	-26	-83	-29	20	44	-138	46	-26	31	-45	-89
	R2.3対比					-29	-9	35	-103	-57	-83	-52	-97	-186
度会郡	卒業生数	419	383	369	358	306	320	340	311	320	287	307	262	267
	前年度対比		-36	-14	-11	-52	14	20	-29	9	-33	20	-45	5
	R2.3対比					-52	-38	-18	-47	-38	-71	-51	-96	-91
鳥羽市	卒業生数	180	181	140	132	149	142	122	107	121	113	107	99	117
	前年度対比		1	-41	-8	17	-7	-20	-15	14	-8	-6	-8	18
	R2.3対比					17	10	-10	-25	-11	-19	-25	-33	-15
志摩市	卒業生数	449	432	400	389	312	339	343	335	295	321	296	248	288
	前年度対比		-17	-32	-11	-77	27	4	-8	-40	26	-25	-48	40
	R2.3対比					-77	-50	-46	-54	-94	-68	-93	-141	-101
小計	卒業生数	2,263	2,192	2,079	1,966	1,825	1,879	1,927	1,737	1,766	1,725	1,745	1,599	1,573
	前年度対比		-71	-113	-113	-141	54	48	-190	29	-41	20	-146	-26
	R2.3対比					-141	-87	-39	-229	-200	-241	-221	-367	-393
県内合計	卒業生数	17,513	17,458	16,811	16,489	15,781	16,211	16,020	15,890	15,582	15,434	15,254	14,729	14,363
	前年度対比		-55	-647	-322	-708	430	-191	-130	-308	-148	-180	-525	-366
	R2.3対比					-708	-278	-469	-599	-907	-1,055	-1,235	-1,760	-2,126

伊勢市内高校 (県立全日)	学級数(募集)	29	28	26	26	24								
	欠員	15	12	2	15	—								
伊勢以外高校 (県立全日)	学級数(募集)	10	10	10	8	8								
	欠員	62	79	84	77	—								
伊勢地区高校 (県立全日)	学級数(募集)	39	38	36	34	32								
	欠員	77	91	86	92	—								
県内(県立全日)	学級数(募集)	308	306	293	285	271								
	欠員	129	279	192	339	—								

(私立、高専入学者の状況)

皇學館	募集	340	340	320	320	315								
	入学者数	349	400	336	378	—								
伊勢学園	募集	230	230	220	220	220								
	入学者数	248	221	243	245	—								
鳥羽商船	募集	120	120	120	120	120								
	入学者数	128	118	122	126	—								
3校の欠員数(合計)		-35	-49	-41	-89	—								
(参考)														
三重	募集	540	540	530	530	530								
	入学者数	571	568	591	624	—								

※欠員の(ー)は、定員を超過した入学者数を示す。

伊勢志摩地域県立高等学校 学級数の推移

学校名	学科	H15年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	R2年	R3年
宇治山田	普通	8	8	8	8	7	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6		5
	自然科学コース(～H16)	1																
	計	9	8	8	8	7	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6		5
伊勢	普通	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6		6
	国際科学コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
伊勢工業	計	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7		7
	機械	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2
	電気	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1		1
宇治山田商	工業化学(～H17)	1																
	建築	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	計	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4		4
明野	商業	5	4	4	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3		2
	情報処理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	国際	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
南伊勢	計	7	6	6	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	5	5		4
	生産技術(生産科学H27～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	食品科学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
鳥羽	経済(流通科学H27～H30)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	生活教養	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	福祉	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
志摩	計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		4
	普通(～H16)	6																
	総合学科(H17～)	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		2
水産	普通	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		2
	国際コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	計	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		4
南伊勢	普通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	普通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
鳥羽	計	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3		2
	普通(～H16)	6																
	総合学科(H17～)	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		2
志摩	普通	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		2
	国際コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	計	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		4
水産	普通(～H16)	1																
	海洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
	水産製造・増殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
南伊勢	計	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		2
	普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	海洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
南伊勢	水産製造・増殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	海洋・機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
南伊勢	水産資源	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
	計	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		2
	水産資源	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2
南伊勢	計	3009	2777	2675	2695	2555	2704	2508	2558	2398	2452	2319	2277	2263	2192	2079	1966	1825
	前年度対比	—	-87	-102	20	-140	149	-196	50	-54	-106	-79	-42	-14	-71	-113	-113	-141
	クラス数	55	48	47	47	45	47	43	44	42	42	40	39	39	38	36	34	32
定員	2185	1905	1865	1865	1785	1865	1705	1745	1665	1665	1600	1560	1560	1520	1440	1360	1280	

伊勢志摩地域の高校(全日制)の入学定員と入学者数・欠員数の推移

教育政策課

学校名	平成28年度			平成29年度			平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度			
	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	
明野	200	200	0	200	185	15	200	189	11	160	159	1	160	150	10	
宇治山田	240	240	0	240	240	0	240	241	(1)	240	240	0	240	240	0	
伊勢	320	320	0	320	320	0	320	320	0	280	280	0	280	280	0	
宇治山田商業	200	200	0	200	200	0	200	200	0	200	200	0	200	199	1	
伊勢工業	200	200	0	200	200	0	160	159	1	160	159	1	160	156	4	
南伊勢	度会校舎	80	60	20	80	67	13	80	43	37	80	70	10	80	36	30
	南勢校舎	40	18	22	40	5	35	40	21	19	40	5	35		14	
鳥羽	80	73	7	80	77	3	80	66	14	80	64	16	80	59	21	
志摩	120	104	16	120	109	11	120	111	9	120	107	13	80	77	3	
水産	80	71	9	80	80	0	80	80	0	80	70	10	80	57	23	
県立高校合計	1,560	1,486	74	1,560	1,483	77	1,520	1,430	91	1,440	1,354	86	1,360	1,268	92	
皇學館	340	384	-44	340	349	-9	340	400	-60	320	336	-16	320	378	-58	
伊勢学園	230	244	-14	230	248	-18	230	221	9	220	243	-23	220	245	-25	
私立高校合計	570	628	-58	570	597	-27	570	621	-51	540	579	-39	540	623	-83	

※県立高校の欠員欄に()で示した数字は、追検査で合格があったために入学者数が入学定員を上回っている人数を表しています。

※私立高校の欠員欄のマイナス(-)は、入学定員を超過した入学者数を示します。

市町別の中学校卒業生進学先の推移

資料 7

伊勢市の状況

%は、各市町における中学校卒業生に対する進学者の割合を表す

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他			
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会	南勢						
元年度	1087	1014	104	179	94	80	66	181	119	27.6%	823	75.7%	18	34	2	4	17	0	75	6.9%	116	73
30年度	1170	1108	112	172	89	82	81	163	124	24.5%	823	70.3%	27	33	5	5	28	0	98	8.4%	187	62
29年度	1196	1117	116	194	95	88	92	185	109	24.6%	879	73.5%	21	23	2	4	23	0	73	6.1%	165	79
28年度	1215	1156	110	200	120	94	79	152	129	23.1%	884	72.8%	35	35	1	0	28	0	99	8.1%	173	59
27年度	1231	1173	119	192	115	108	98	170	115	23.2%	917	74.5%	32	23	1	5	36	0	97	7.9%	159	58

鳥羽市の状況

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他			
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会	南勢					
元年度	132	129	19	11	5	11	11	14	4	13.6%	75	56.8%	18	13.6%	10	1	3	0	0	22	3
30年度	140	135	21	14	11	10	14	19	7	18.6%	96	68.6%	9	6.4%	10	10	6	0	0	4	5
29年度	181	170	13	12	8	23	20	21	7	15.5%	104	57.5%	25	13.8%	8	6	7	0	0	20	11
28年度	180	173	16	18	11	16	27	19	8	15.0%	115	63.9%	23	12.8%	9	7	4	0	0	15	7
27年度	145	135	18	11	10	8	16	21	12	22.8%	96	66.2%	12	8.3%	10	0	2	0	0	15	10

志摩市の状況

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他				
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会	南勢						
元年度	389	372	38	51	18	29	19	52	24	19.5%	231	59.4%	3	13	72	18.5%	40	10.3%	0	0	13	17
30年度	400	384	41	39	23	37	11	36	10	11.5%	197	49.3%	4	13	90	22.5%	48	12.0%	0	0	32	16
29年度	432	418	40	49	16	34	20	45	8	12.3%	212	49.1%	0	21	98	22.7%	54	12.5%	0	1	32	14
28年度	449	434	49	43	16	39	17	49	8	12.7%	221	49.2%	4	14	99	22.0%	67	14.9%	0	0	29	15
27年度	462	447	41	50	24	34	24	60	11	15.4%	244	52.8%	0	15	98	21.2%	52	11.3%	0	3	35	15

玉城町の状況

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他			
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会	南勢						
元年度	178	167	12	14	11	14	13	20	12	18.0%	96	53.9%	2	5	0	0	7	1	15	8.4%	56	11
30年度	158	150	14	12	11	9	14	11	16	17.1%	87	55.1%	3	2	0	0	18	0	23	14.6%	40	8
29年度	163	156	22	23	7	9	9	13	13	16.0%	96	58.9%	0	5	0	0	10	0	15	9.2%	45	7
28年度	177	172	14	15	20	5	10	14	20	19.2%	98	55.4%	0	4	0	0	16	0	20	11.3%	54	5
27年度	177	167	14	23	4	9	14	10	21	17.5%	95	53.7%	6	4	0	1	15	0	26	14.7%	46	10

度会町の状況

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他			
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会校舎	南勢					
元年度	70	65	4	8	5	10	3	4	5	12.9%	39	55.7%	0	1	0	0	9	12.9%	0	16	5
30年度	86	85	6	8	8	9	6	5	5	11.6%	47	54.7%	0	2	0	0	21	24.4%	0	15	1
29年度	79	76	8	7	9	6	6	11	1	15.2%	48	60.8%	0	5	0	0	6	7.6%	0	17	3
28年度	77	76	1	7	7	8	7	5	3	10.4%	38	49.4%	0	0	0	0	19	24.7%	0	19	1
27年度	89	85	5	6	9	7	5	8	7	16.9%	47	52.8%	0	4	0	0	5	5.6%	0	29	4

南伊勢町の状況

年度	卒業 者数	全日制 高校・ 高専進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校	鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他			
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学						度会	南勢校舎					
元年度	51	51	7	3	5	8	1	6	5	21.6%	35	68.6%	0	0	1	0	0	13	25.5%	2	0
30年度	64	62	5	7	5	9	3	8	4	18.8%	41	64.1%	0	1	2	2	2	4	6.3%	10	2
29年度	79	75	7	10	5	7	1	5	3	10.1%	38	48.1%	0	1	5	2	2	20	25.3%	7	4
28年度	89	88	11	15	9	6	6	15	4	21.3%	66	74.2%	0	0	0	1	2	5	5.6%	14	1
27年度	99	98	7	17	12	6	6	9	4	13.1%	61	61.6%	0	2	3	1	2	15	15.2%	14	1

* 管外とは伊勢志摩地域の全日制の県立（10校）と私立（2校）と高専（1校）以外の高校・高専への進学人数
その他とは特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数

令和2年度の協議について

1 協議の進め方

予測することが困難であると言われるほど社会情勢が大きく変化する中で、教育的課題はより複雑化・多様化しています。そのような中、これからの時代を生きていく高校生にどのような力を育み、本県の高校でどのような教育を進めるべきかなど、これからの三重の高校教育のあり方について検討していく必要があります。

こうした本県の県立高校の将来像については、「三重県教育改革推進会議」を中心に議論・整理していくとともに、既存の高校教育の枠にとられない幅広く多様な観点・角度から調査し考察を加えるため、今年度新たに設置する「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」において、次期「県立高等学校活性化計画」（令和4年度から5年間、以下「次期計画」）の策定も見据えながら審議します。

各地域（伊勢志摩・伊賀・紀南）に設置した高等学校活性化推進協議会においては、これまで長年にわたり、特に少子化への対応等を中心に各地域の現状認識を共有しつつ、地域特有の課題の解決に向けて協議を重ねてきました。令和2年度の各地域の協議会においては、教育に関する国の動向を踏まえながら、次期計画の策定を見据えて、地域における高校教育及び高等学校のあり方について協議します。

2 現状と課題

- (1) 伊勢志摩地域の中学校卒業生数は、今後6年間で1学年あたり約240人の減少（現高1対比）が見込まれています。
- (2) 地方創生・地域活性化の視点や通学にかかる負担等の観点から、鳥羽・志摩・度会各地域では、小規模であっても高校の存続を望む声は存在します。伊勢志摩地域における1学年3学級以下の小規模校（4校5校舎）については、「県立高等学校活性化計画（平成29年3月）」に基づき、学校別に活性化協議会を設置して、地域と一体となった活性化に取り組んでいます。また、昨年度からは「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」を実施し、地域と連携した学習活動にも取り組んでいます。
- (3) 鳥羽・志摩・度会各地域の高校では、すでに1学年2学級以下となっていますが、慢性的に欠員を生じる状況が続いており、今後の中学校卒業生数の減少を見据えると、さらなる学級減や学校のあり方等の検討が必要です。
- (4) 伊勢市内の高校も学級減が進んでおり、特に専門学科設置校は、令和3年度には3校すべてが1学年4学級規模となります。令和6年度以降の当地域の中学校卒業生数の減少を勘案すると、1学年4学級規模が維持できなくなることが想定されます。
- (5) 地元県立高等学校への志願者増加のためには、早い段階でのPRが有効であるという意見が多くあります。その効果と課題をふまえながら、小学生やその保護者への周知方法についても検討する必要があります。

3 今年度の協議

- (1) 来年度に策定予定の次期計画に向けて、教育に関する国の動向や伊勢志摩地域の県立高校を取り巻く現状や課題を踏まえながら、これからの当地域において目指すべき高校教育及び高等学校のあり方等について協議していきます。
- (2) 県立高校の魅力を地域の中学生や保護者へ広く効果的に発信する方法について検討します。

○第1回協議会

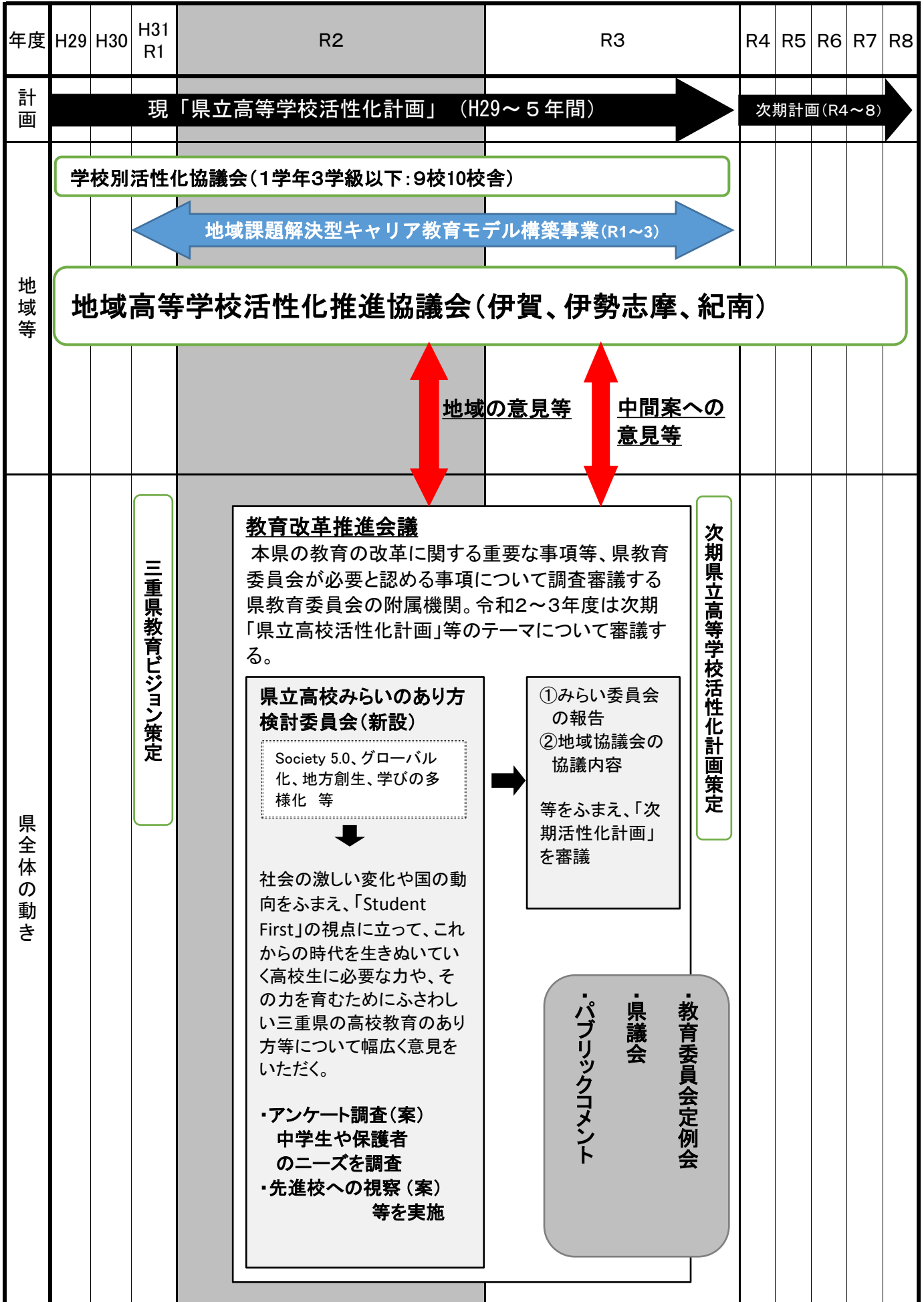
- ・伊勢志摩地域の県立高等学校の今後のあり方について
- ・令和2年度の地域の県立高等学校のPR活動について
- ・その他

○第2回協議会

- ・伊勢志摩地域の県立高等学校の今後のあり方について
- ・その他

※鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議、専門学科検討ワーキング会議は、引き続き休会とし、必要が生じた際に再開することとする。

次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けて



令和2年度の県立高等学校のPR活動について

伊勢志摩地域の県立高校の魅力を広く発信する方法の一つとして、高校の合同説明会を開催することについては、県内他地域での取組を参考にしながら平成27年度ごろから当協議会で議論されてきました。この合同説明会は、地域全体の県立高校のPRの場として、特に伊勢市内で説明会等の機会が少ない鳥羽志摩度会地域の小規模校が、地域の小中学生や保護者等に多様な進路選択の機会を提供するものとして、平成29年度から実施してきました。

○「進学フェスタ」過去3回の開催日時、内容、来場者等

第1回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

平成29年6月10日（土） 13:00 開会 会場：ハートプラザみその

内容：講演会（安河内哲也氏）、ステージ発表、ブースでの進路相談等

来場者（受付）365人 アンケート回収 226部

第2回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

平成30年6月9日（土） 12:30 開会 会場：ハートプラザみその

内容：講演会（浦上大輔氏）、ステージ発表、ブースでの進路相談、学習成果の発表等

来場者（受付）234人 アンケート回収 162部

第3回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

令和元年11月17日（日） 13:00 開会 会場：いせトピア

内容：ステージ発表、ブースでの進路相談等

来場者（受付）220人 アンケート回収 132部

○昨年度の協議会での協議

昨年度末の協議会では、「伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ」については、県立高校の魅力が児童生徒により効果的に発信できるよう内容や開催方法など改善を加え、翌令和2年度も引き続き実施する方向を確認しました。

○今年度の県立高校魅力発信について

その後、新型コロナウイルスの感染拡大による学校の休校措置や非常事態宣言を経て、現在もその影響が残る状況を考慮して、今年度は、地域で不特定多数が集まるイベントである進学フェスタは開催を中止したいと考えます。また、その代替策として、各県立高校のWebページを紹介するチラシ（次ページ）を作成し、地域の市町教育委員会の協力のもと、地域の中学生・保護者に配付することとしてはどうか。

伊勢志摩地域

県立高校紹介

中学生とその保護者のみなさんへ

伊勢志摩地域の県立高校は魅力がいっぱい！

各県立高校ホームページへは 裏面のQRコード からアクセスを！
きっと、学びたい学校がそこにある！

県立高校案内は「レインボーメッセージ」をご覧ください。

<http://www.mie-c.ed.jp/rainbow/index.html>



伊勢志摩地域の県立高校マップ

県立高校進学後の教育費については各種支援制度があります。詳しくはこちら

<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOZAIMU/HP/singakusien/index.htm>



三重県教育委員会

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

お問い合わせ 三重県教育委員会事務局教育政策課 担当：星野 TEL: 059-224-2951

気になる県立高校のWebページを見てみよう！

宇治山田高等学校 (全日制) 伊勢市浦口3丁目13-1



設置学科 募集定員
普通科 200人

伊勢高等学校 (全日制) 伊勢市神田久志本町1703-1



設置学科 募集定員
普通科 240人
普通科 (国際科学コース) 40人

伊勢工業高等学校 (全日制) 伊勢市神久2丁目7-18



設置学科 募集定員
機械科 80人
電気科 40人、建築科 40人

宇治山田商業高等学校 (全日制) 伊勢市黒瀬町1193



設置学科 募集定員
商業科 80人、情報処理科 40人
国際科 40人

明野高等学校 (全日制) 伊勢市小俣町明野1481



設置学科 募集定員
生産科学科 40人、生活教養科 40人
食品科学科 40人、福祉科 40人

南伊勢高等学校南勢校舎 (全日制) 南伊勢町船越2926-1



設置学科 募集定員
普通科 80人
(度会校舎と南勢校舎をあわせた定員)

南伊勢高等学校度会校舎 (全日制) 度会町大野木2831



設置学科 募集定員
普通科 80人
(度会校舎と南勢校舎をあわせた定員)

鳥羽高等学校 (全日制) 鳥羽市安楽島町1459



設置学科 募集定員
総合学科 80人

志摩高等学校 (全日制) 志摩市磯部町恵利原1308



設置学科 募集定員
普通科 80人

水産高等学校 (全日制) 志摩市志摩町和具2578



設置学科 募集定員
海洋・機関科 40人
水産資源科 40人

伊勢まなび高等学校 (定時制) 伊勢市神田久志本町1560



設置学科 募集定員
普通科 (午前の部) 40人
普通科 (午後の部) 40人
ものづくり工学科 (夜間) 40人

伊勢志摩地域の県立特別支援学校には
「玉城わかば学園」(玉城町)と
「度会特別支援学校」(度会町)に
高等部があります。

